

高速道路での逆走対策に関する 有識者委員会(第4回)

- | | |
|---------------------|-----|
| I. 2017年逆走発生状況 | 資料1 |
| II. 逆走対策実施状況 | 資料2 |
| III. 逆走発生の詳細分析 | 資料3 |
| IV. 新技術を活用した更なる逆走対策 | 資料4 |
| V. 今後の対策の進め方 | 資料5 |

I. 2017年逆走発生状況

事故ベース: 逆走による死亡、負傷、物損事故

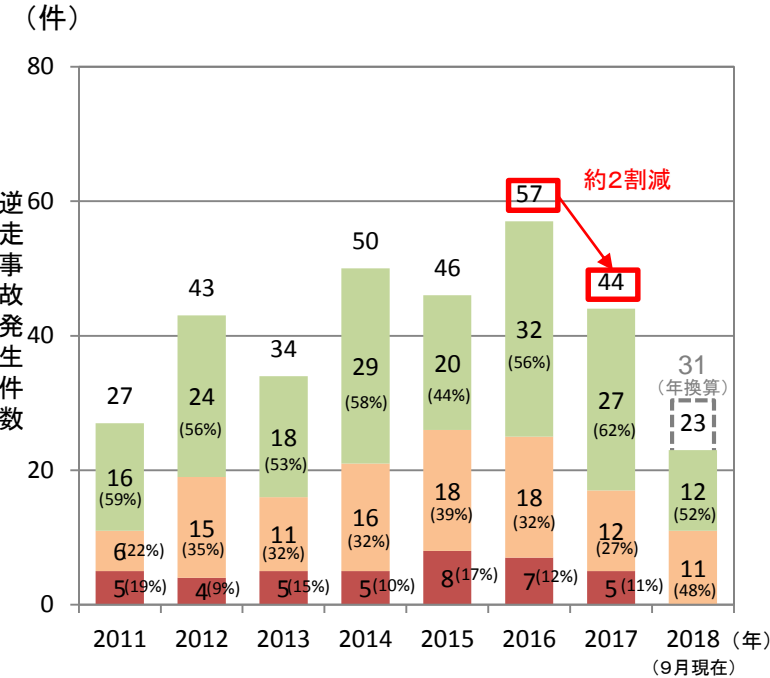
確保ベース: 逆走事故 + 事故に至らないが警察等が逆走車を確保

通報ベース: 道路利用者による通報 + パトロール隊や監視カメラによる発見

I-1. 2017年逆走発生状況(事故)

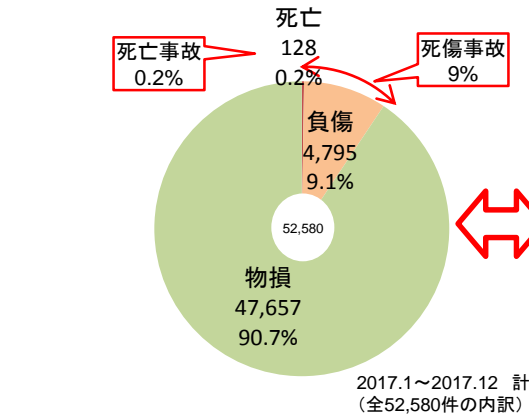
1-①. 2017年逆走発生状況(事故件数)[事故形態別]

○2017年の逆走事故は、前年に比べ、約2割減少。死亡約1割、負傷約3割、物損約6割の傾向に大きな変化は見られない。
 ○高速道路での事故全体に比べ、逆走事故は死亡事故になる割合は約55倍、死傷事故になる割合は約4倍と、特に高いという傾向に大きな変化はない。



〈逆走事故発生件数の推移と事故形態〉

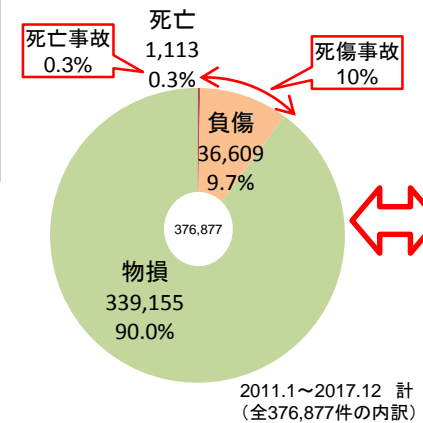
※※2018年11月 死亡事故が1件発生



2017.1~2017.12 計 (全52,580件の内訳)

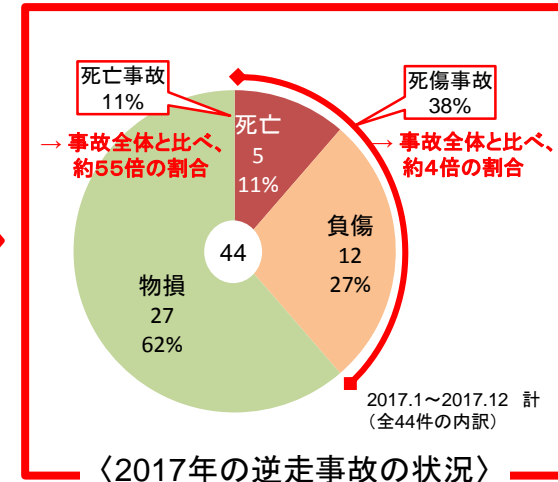
〈2017年の事故全体の状況〉

事故形態



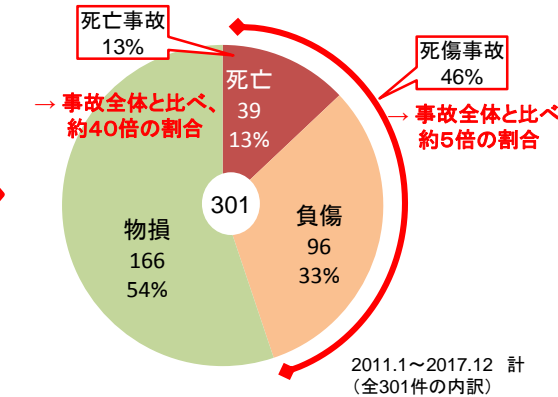
2011.1~2017.12 計 (全376,877件の内訳)

〈2011~2017年の事故全体の状況〉



2017.1~2017.12 計 (全44件の内訳)

〈2017年の逆走事故の状況〉



2011.1~2017.12 計 (全301件の内訳)

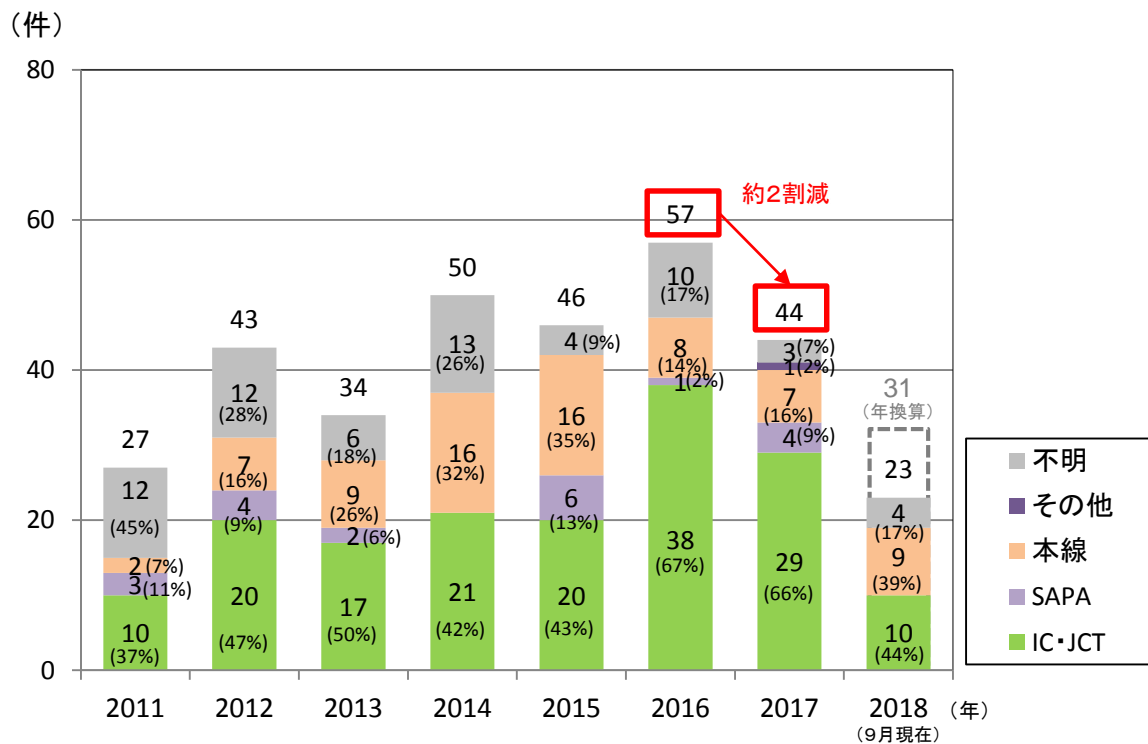
〈2011~2017年の逆走事故の状況〉

データ: 2011年~2018年9月の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故に至った逆走事案 N=324
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

※ 高速道路会社が管理する高速道路の状況(高速道路会社調べ)

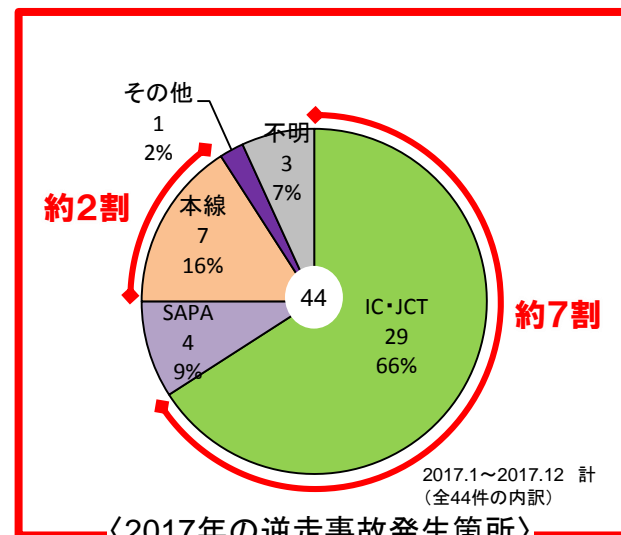
1-②. 2017年逆走発生状況(事故件数)[箇所別]

○2017年の逆走事故の発生箇所については、IC・JCTが約7割と例年より多いが、本線が約2割という傾向には大きな変化はない。

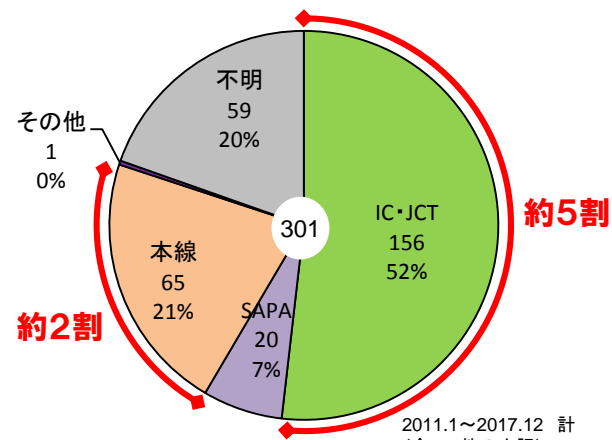


〈逆走事故発生件数の推移と発生箇所〉

※発生箇所は逆走開始地点で分類



2017.1~2017.12 計 (全44件の内訳)



2011.1~2017.12 計 (全301件の内訳)

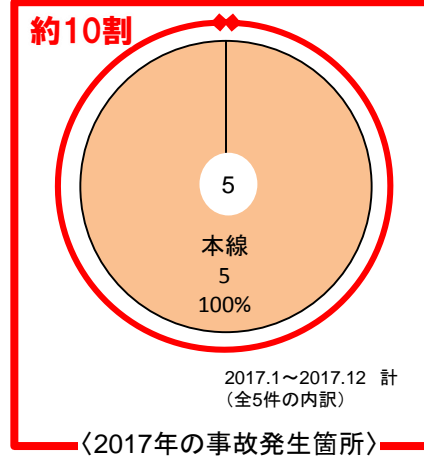
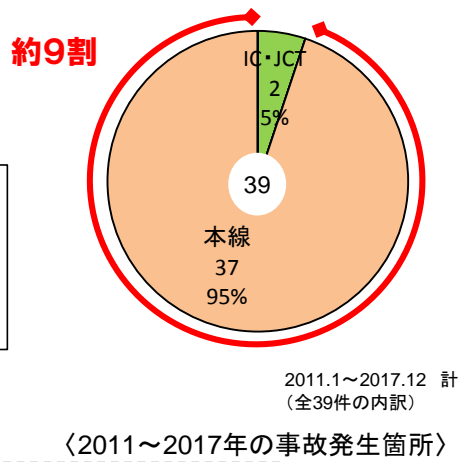
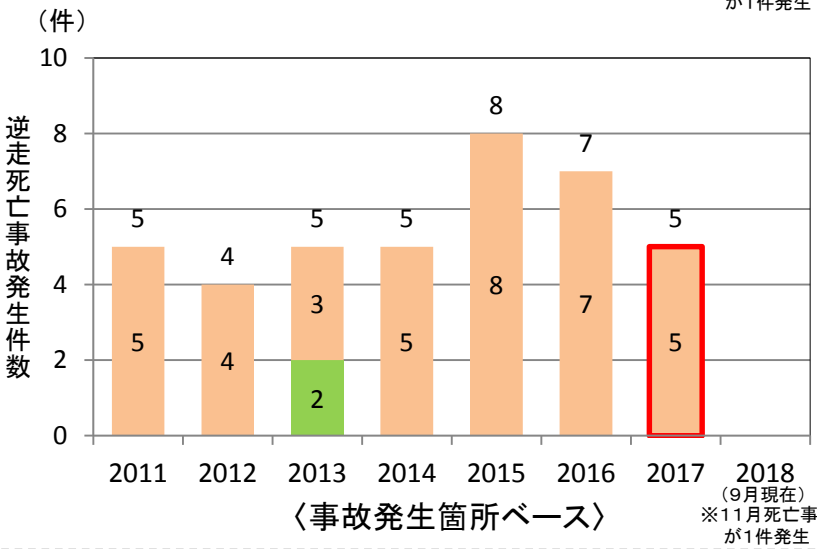
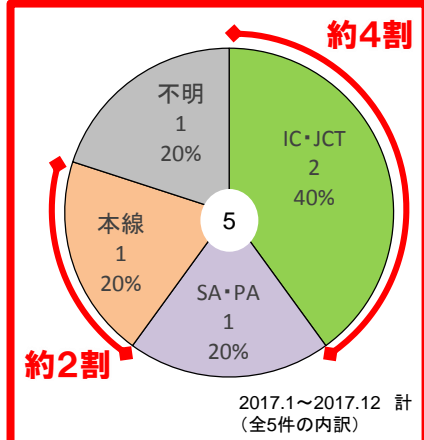
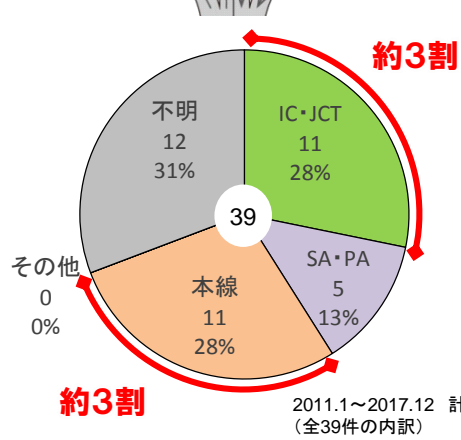
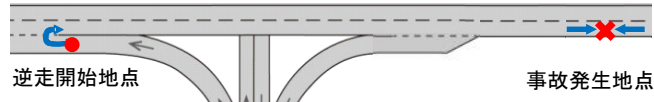
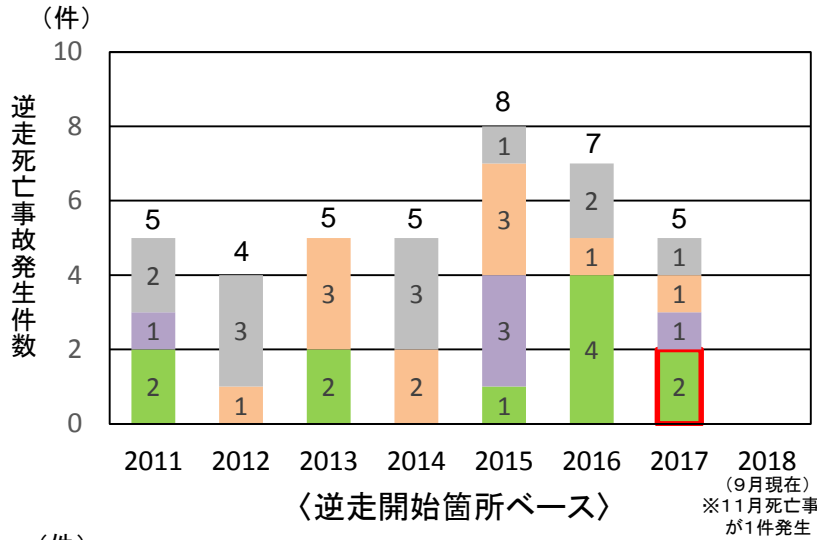
〈2011~2017年の逆走事故発生箇所〉

データ: 2011年~2018年9月の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故に至った逆走事案 N=324
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

1-③. 2017年逆走発生状況(死亡事故件数)[箇所別]

開始箇所ベース
事故箇所ベース

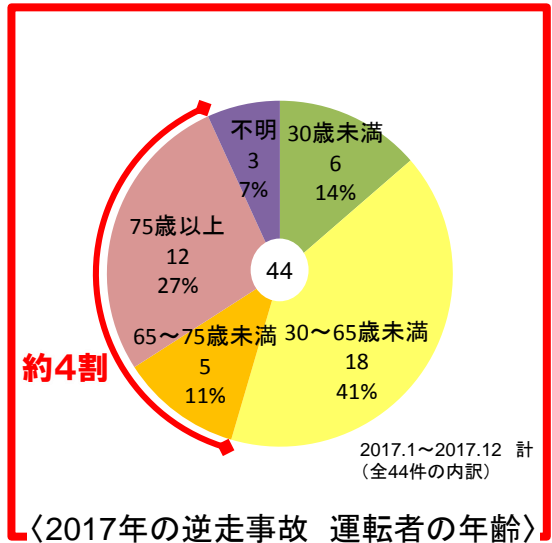
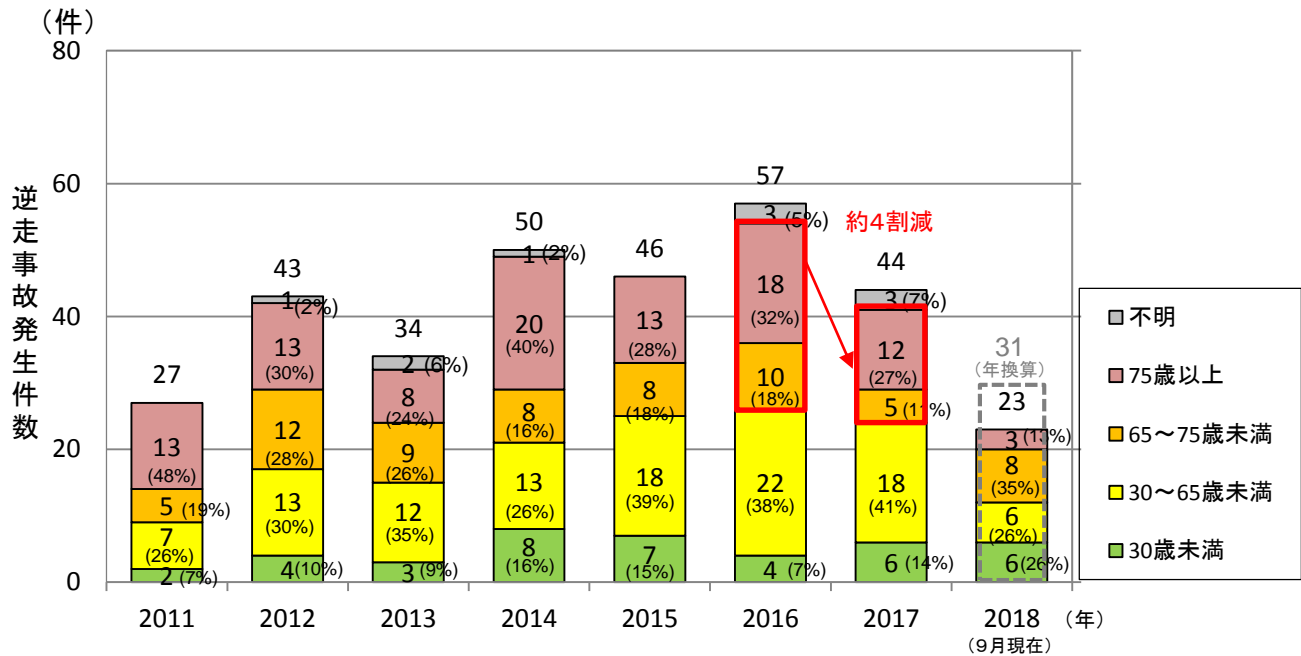
○2017年の死亡事故の逆走開始地点は、IC・JCTが約4割と最も多く、次いで本線が約2割となっている。
○事故発生箇所については、すべてが本線となっている。



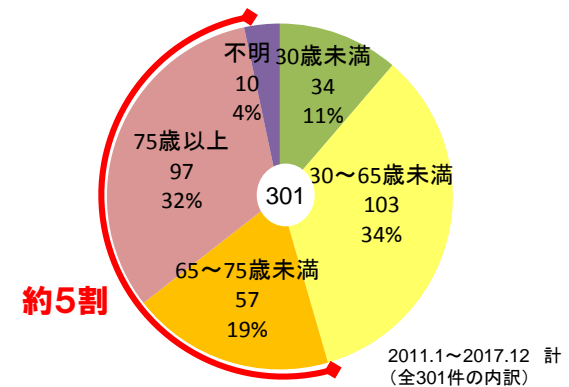
データ: 2011年~2018年9月の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における死亡事故 N=39
出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

1-④. 2017年逆走発生状況(事故件数)[年齢別]

○2017年の逆走事故の年齢構成は、65歳以上が前年度比約4割減となり、全体に占める割合も約4割と例年より低かった。



〈逆走事故発生件数の推移と運転者の年齢〉

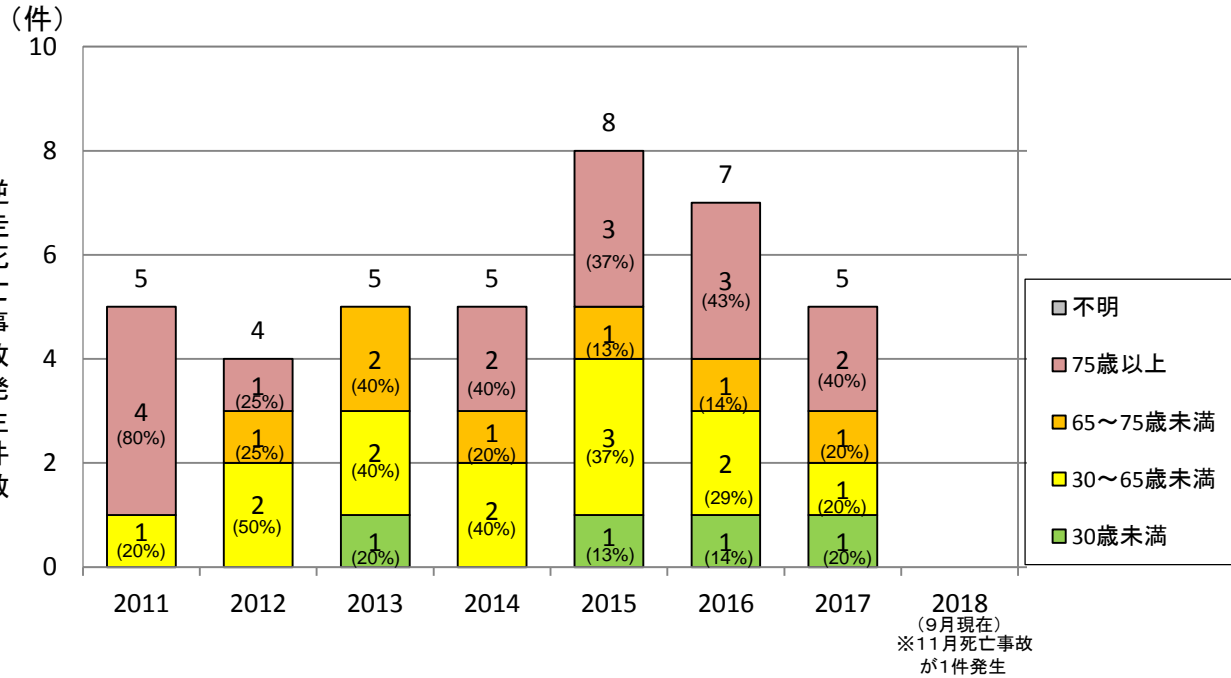


〈2011～2017年の逆走事故 運転者の年齢〉

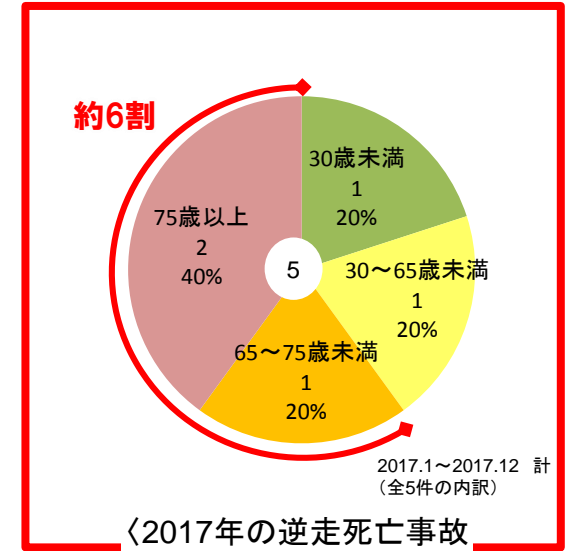
データ: 2011年～2018年9月の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故に至った逆走事案 N=324
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

1-⑤. 2017年逆走発生状況(死亡事故件数)[年齢別]

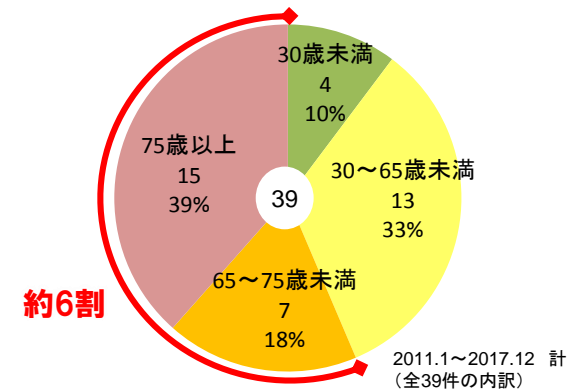
○2017年の逆走死亡事故の年齢構成は、65歳以上が全体の約6割となり、例年と同様で傾向に大きな変化は見られない。



〈逆走死亡事故発生件数の推移と運転者の年齢〉



〈2017年の逆走死亡事故運転者の年齢〉



〈2011～2017年の逆走死亡事故運転者の年齢〉

データ： 2011年～2018年9月の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における死亡事故 N=39

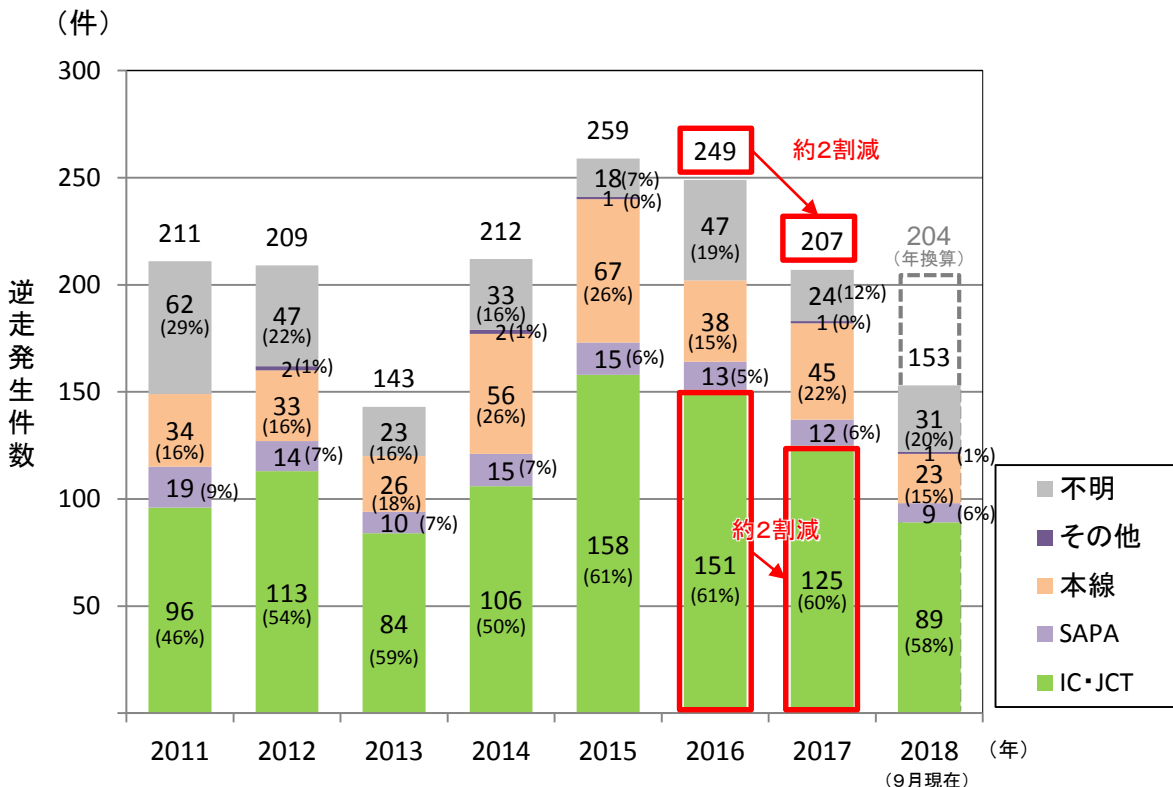
出典： 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

I -2. 2017年逆走発生状況(確保)

2-①. 2017年逆走発生状況(確保件数)[箇所別]

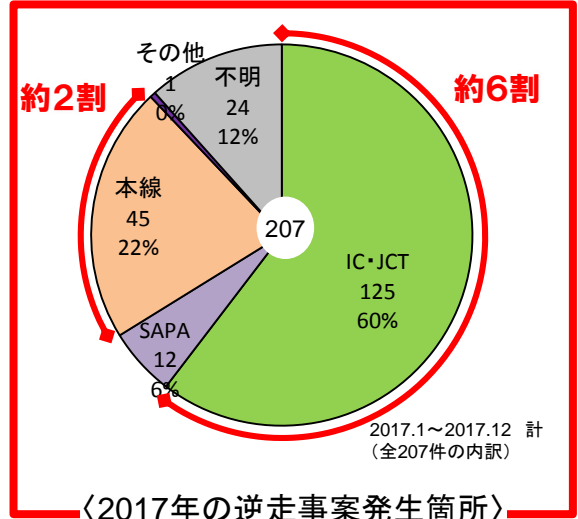
※確保は事故発生後も含む

○2017年の逆走発生件数については、前年に比べ約2割減少。
 ○発生箇所別では、IC・JCTが前年に比べ約2割減少しているものの、全体に対しては約6割と最も多く、次いで本線が約2割という傾向に大きな変化はない。

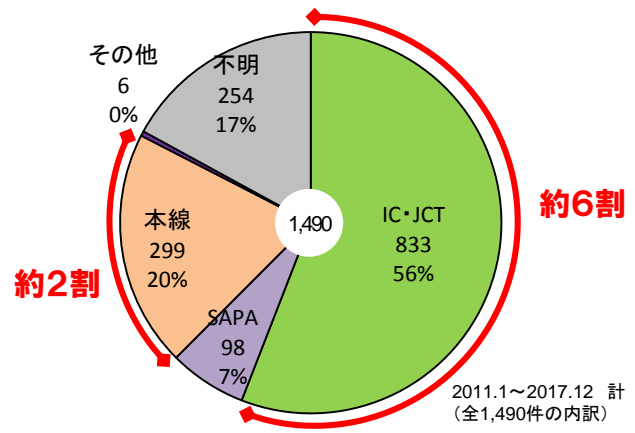


〈逆走事案発生件数の推移と発生箇所〉

※発生箇所は逆走開始地点で分類



〈2017年の逆走事案発生箇所〉



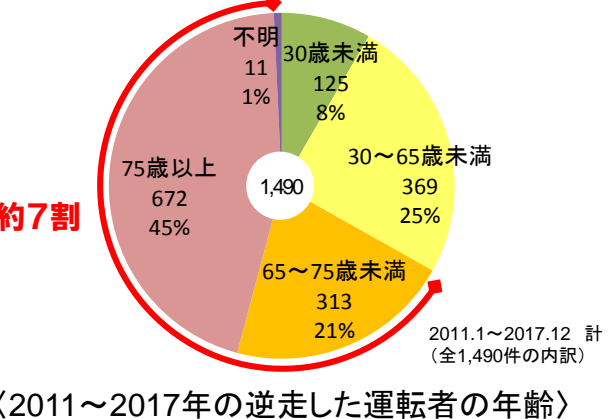
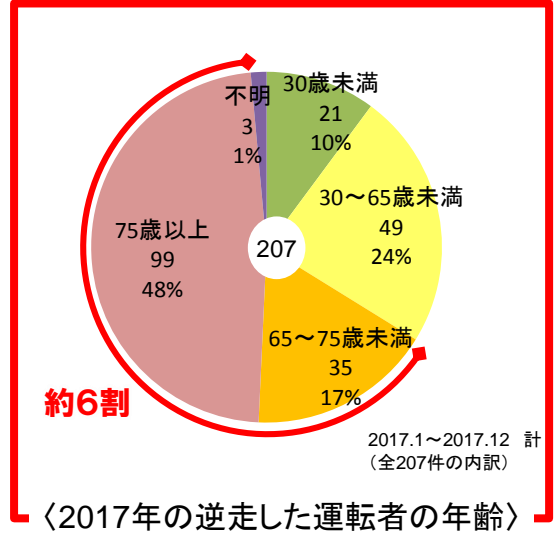
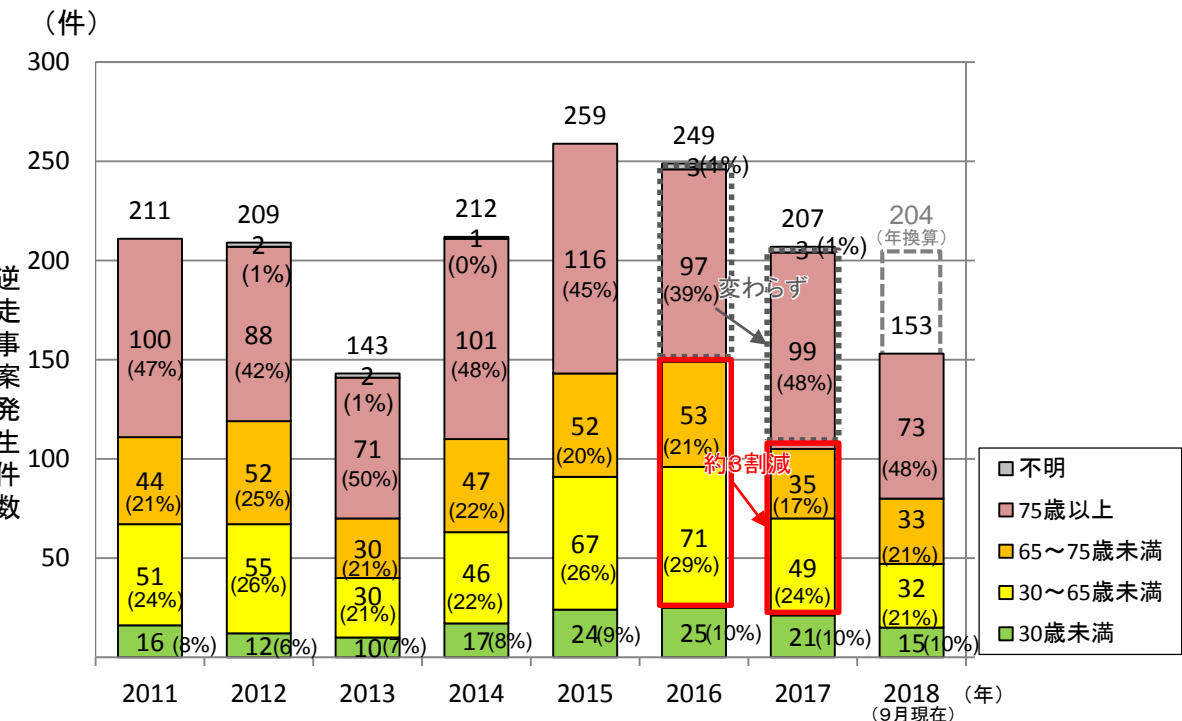
〈2011~2017年の逆走事案発生箇所〉

データ: 2011年~2018年9月の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故または確保に至った逆走事案 N=1,643
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

2-②. 2017年逆走発生状況(確保件数)[年齢別]

※確保は事故発生後も含む

- 2017年の逆走発生件数の年齢構成については、65歳以上が約6割と最も多いという傾向に大きな変化はない。
- 30歳以上75歳未満は、前年に比べ約3割減少している。
- 75歳以上は、2014年以降100件前後で推移しており、減少が見られない。

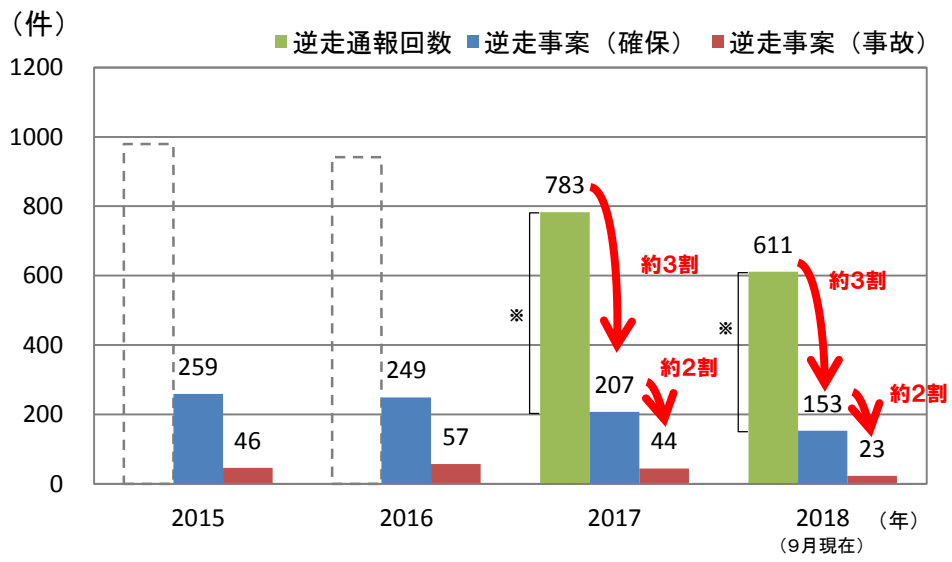


データ： 2011年～2018年9月の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故または確保に至った逆走事案 N=1,643
 出典： 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

〈参考〉2017年逆走発生状況(通報)

<参考>2017年逆走発生状況(通報件数)

○逆走通報件数に対して、確保件数は約3割。確保件数に対して、事故件数は約2割。



<逆走通報回数と逆走発生事案>

※は「誤報」もしくは、「自ら気づき順走に戻った」か、「逆走をしつづけて出口等から退出」した件数と史料

逆走事案
 データ: 2015年~2018年9月の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故または確保に至った逆走事案 N=868
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

逆走通報回数
 データ: 2017年~2018年9月の高速道路(NEXCO東日本,NEXCO中日本,NEXCO西日本,本四高速)で逆走の通報やパトロールでの発見があった回数 N=1,394
 出典: 高速道路会社が作成

2017年 逆走発生状況のまとめ

N:2017年の逆走発生事案、事故、通報回数の件数

	事故 (N=44)	確保 (N=207)※事故を含む	通報(参考) (N=783)
件数	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年(57件)をピークに減少 ・2016年(57件)に対し、 2017年(44件) 約2割減 	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年(259件)をピークに減少 ・2016年(249件)に対し、 2017年(207件) 約2割減 	<ul style="list-style-type: none"> ・通報回数 2017年 783件
事故形態	<p><2017年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・死亡約1割、負傷約3割、物損約6割 ・2011年～2017年と比較すると傾向に 大きな変化はない 	-	-
箇所別	<p><2017年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・IC・JCT約7割、SA・PA約1割、本線約2割 ・2011年～2017年の傾向と比較するとIC・JCTでの発生割合が約2割増 	<p><2017年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・IC・JCT約6割、SA・PA約1割、本線約2割 ・2011年～2017年と比較すると傾向に 大きな変化はない 	-
年齢別	<p><2017年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上が約4割 ・2011年～2017年と比較すると65歳以上の割合が約1割減少 	<p><2017年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上約6割 ・2011年～2017年と比較すると傾向に 大きな変化はない 	-